

# 「情報活用の実践力」を育成する取組

－ 1 単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫と他教科等の学び方を生かす関連付けを通して－

前橋市立桂萱東小学校 内村 央絵

本研究は「1 単元における『情報活用の実践力』の指導の工夫と他教科等の学び方を生かす関連付け」を通して、「児童の『情報活用の実践力』の育成」を目指すものである。そのために、第4 学年の社会科で以下の実践を行い、成果を検証した。

## ①【1 単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫】

児童が学習活動の中で「情報活用の実践力」を意識し習得できるようにするために、「情報活用の実践力」の体系表を作成し、それを基に焦点化した能力を単元指導計画に位置付け、可視化や動作化で意識を促し、自己の能力を自覚する振り返りを行い習得につなげる支援を行った。

## ②【他教科等の学び方を生かす関連付け】

児童が身に付けた「情報活用の実践力」を教科等間で活用できるようにするために、単元一覧表に、共通する「情報活用の実践力」を位置付け、児童が活用できる学習場面を設定すると共に、活用を促す支援を行った。

## I 主題設定の理由

### 1 現状と問題の把握

小学校学習指導要領総則（平成 29 年告示）において、「情報活用能力は、各教科等の学びを支える基盤であり、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成していくことができるよう、教科等横断的な視点から各学校では教育課程の編成を図ること」と示されている。また、教育の情報化に関する手引（文部科学省 2020）では、情報教育の目標が三つに整理されており、その一つが「情報活用の実践力」である。

「情報活用の実践力」については、「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」とされている。この能力を児童が身に付ければ、問題解決に向けて主体的に資料から情報を集めたり整理したりして、友達と考えを伝え合いながら学びを深めていくことができると考える。また、「はばたく群馬の指導プランⅡ」では、全ての教科等で問題解決における情報活用として、「情報の収集」「情報の整理・比較」「情報の発信・伝達」が示されていることから、情報の収集・整理・発信は情報を活用する重要な学習だと分かる。よって、指導者は、児童が問題解決における情報活用に「情報活用の実践力」をより一層意識して取り組むことができるように授業を計画する必要がある。そして、児童が自分の「情報活用の実践力」について自覚し、活用して学習問題を解決することで「情報活用の実践力」を習得できるものとする。

本市においては、令和 2 年度より児童に一人一台学習者用端末が配付され、各教科等での活用が多く見られている。自分自身のこれまでの授業を振り返ってみると、児童の学習者用端末の操作技能の向上に注力し、各教科等においてどのような活動を行うことが「情報活用の実践力」の育成につながるのかまで具体的に捉えられていなかった。指導者の捉

えがあいまいであると、問題解決における情報活用の収集・整理・発信の学習活動の中で、児童に必要な資質・能力を養うまでには至らない。また、教科等横断的な視点に立ち、教科等間の指導を関連付ける取組は行われてはいるが、「情報活用の実践力」を具現化して統合的に活用する取組までには、なかなか進められていないのが課題である。

このような現状に対し、各教科等の学習指導において、「情報活用の実践力」をどのように育成していくのかを明確にした上で、授業を計画的に指導する必要がある。そうした指導者の取組を行うことで、各教科等の授業で児童が情報の活用について意識できるようになると同時に、学習活動を通して「情報活用の実践力」をより具体的に捉え、活用することで習得につながると考える。本研究では、各教科等における「情報活用の実践力」の育成に向けた授業例の一つとして、4年生の社会科で授業を実践する。「情報活用の実践力」の体系表を作成し単元指導計画に位置付け、可視化や動作化を通して意識を促し、自己の能力を自覚する振り返りを行い習得につながる支援と、単元一覧表に、共通する「情報活用の実践力」を位置付け、児童が活用できる学習場面の設定をすると共に、活用を促す支援をすることが有効であると考え、本主題を設定した。

## 2 目指す児童像

児童が「情報活用の実践力」を身に付ければ、学習の中で情報を収集したり、自分の考えを整理したりしてまとめ、相手に向けて発信することができると思う。このような「情報活用の実践力」を発揮しながら、児童は主体的に考えたり他者と協働したりしてより学びを深めていくことができる。このことから、「情報活用の実践力」が育成された児童の姿を「『情報活用の実践力』を意識し、活用しながら学ぶことができる児童」とする。

## II 研究のねらい

児童の「情報活用の実践力」を育成するための取組として、1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫と他教科等の学び方を生かす関連付けが有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

以下の二つの手立てを取り入れることで、児童の「情報活用の実践力」を育成することができるであろう。

### 1 1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫

児童が学習活動の中で「情報活用の実践力」を意識し、習得できるようにするために、「情報活用の実践力」の体系表を作成し、それを基に焦点化した能力を単元指導計画に位置付け、可視化や動作化で意識を促し、自己の能力を自覚する振り返りを行い習得につながる支援を行う。

### 2 他教科等の学び方を生かす関連付け

児童が他教科等で身に付けた「情報活用の実践力」を教科等間で活用できるようにするために、単元一覧表に、共通する「情報活用の実践力」を位置付け、児童が活用できる学習場面の設定をすると共に、活用を促す支援を行う。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え

#### (1) 「『情報活用の実践力』を育成する取組」とは

本研究における「情報活用の実践力」とは、問題解決に向けた学習活動の中で、情報を収集したりまとめたりしながら、相手を意識して自分の考えを伝える力のことである。この力は、各教科等の問題解決的な学習で発揮するものであり、児童が主体的に取り組み、他者と考えを交流して学びを深めていくために必要な力である。児童の「情報活用の実践力」を育成するためには、児童自身がこれまでの学習を通して身に付けた「情報活用の実践力」を意識し、活用することで、習得するというサイクルが必要である。このサイクルを児童が認識できるように指導者が授業の中で計画的に支援することを「『情報活用の実践力』を育成する取組」とする。

#### (2) 「1 単元における『情報活用の実践力』の指導の工夫」とは

指導者が「情報活用の実践力」の体系表を作成し、それを基に単元指導計画に位置付けると共に、児童が「情報活用の実践力」を意識し、自己の能力を自覚して習得につなげられるようにする支援を行うことである。

#### ア 「体系表の作成と単元指導計画への位置付け」とは

2013 年に行われた情報活用能力調査（文部科学省）では、「情報活用の実践力」を「収集・読み取り」「整理・解釈」「発信・伝達」の3観点で示している。本研究では、それらをさらに三つの要素に細分化した上で児童の目指す姿を系統的に表にまとめて「情報活用の実践力」の体系表として作成する（表1）。これにより指導者は、具体的にどのようなことを児童に身に付けさせればよいのか把握することができる。そして、この体系表を基に、各教科等のめあてを達成するための学習活動と「情報活用の実践力」を照らし合わせて、単元指導計画に位置付けて授業を計画する。このような単元指導計画への位置付けを通して、主体的に情報を活用して問題を解決する場を設定することができる。

なお、児童が意欲的にそれぞれの力を使いながら学習に取り組めるように、「情報活用の実践力」を「情報活用パワー」と児童にとって理解しやすい言葉に置き換える。「収集・読み取り」「整理・解釈」「発信・伝達」の3観点を児童に伝える際には、児童にとって活動を想像しやすい言葉として、「あつめるパワー」「まとめるパワー」「伝えるパワー」と名付ける。「あつめるパワー」は「探す力」「選ぶ力」「読み取る力」、「まとめるパワー」は、「分ける力」「比べる力」「つなげる力」、「伝えるパワー」は、「工夫する力」「見直す力」「話す力」とそれぞれの要素を整理し、掲示物を作成し可視化する（図1）。

表1 「情報活用の実践力」の体系表

情報活用の実践力		児童の目指す姿		
観点	要素	低学年	中学年	高学年
収集・読み取り	あつめるパワー	図画や体験、人から聞いたことなどから情報を探す。	図画やインターネット上のサイト、インタビュー、観察など様々な情報手段を正しく活用して情報を探す。	図画やインターネット上のサイト、観察など様々な情報手段から、目的の情報に合った手段で情報を探す。
	選ぶ力	探した情報から必要な情報が分かる。	探した情報から必要かどうかと考えると選ぶ。	課題に応じて探した情報を選択したり追加したりする。
	読み取る力	集めた情報の示していることが分かる。	集めた情報の大事な事項が分かる。	集める情報から必要な情報を読み取ったり、大事な事項を挙げるようになる。
整理・解釈	分ける力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、判断したり複数の情報を分類（仲間分け）したりできる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせて判断したり複数の情報を分類（仲間分け）したりできる。	情報（資料など）を読み取った後、判断したり複数の情報を分類（仲間分け）したりして、目的を意識して評価・改善しながら取り進むことができる。
	比べる力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、似ている点や違う点を比べることができる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせて似ている点や違う点から比べることができる。	情報（資料など）を読み取った後、似ている点や違う点から比べて、目的を意識して評価・改善しながら取り組むことができる。
	つなげる力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、それらがどのようなつながりがあるのかを考えたることができる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせてそれらがどのような関係性なのかを考えたることができる。	情報（資料など）を読み取った後、それらがどのような関係性なのかを考えた後、目的を意識して評価・改善しながら取り組むことができる。
発信・伝達	工夫する力	写真や絵などどこに入れるかを考えて、伝えるものを作るることができる。	相手や目的に応じて、写真や図の大きさや文字の色などを工夫して伝えるものを作ることができる。	相手や目的に応じて、自分の集団が伝わるように写真や図、文字の位置や大きさを工夫して伝えるものを作ることができる。
	見直す力	自分が考えたものをもっと一度見直すために、友達のアドバイスを聞くことができる。	友達からのアドバイスや参考に、自分が考えたものをもっと一度見直しができる。	友達からのアドバイスや参考に、自分が考えたものをもっと一度修正したり再構成したりできる。
	話す力	相手に伝わるように、大きな声で分かりやすく話すことができる。	相手に伝わるように、声の大きさや顔の取り方に気をつけて話すことができる。	相手に伝わるように、身振りや声の抑揚など工夫を取り入れて話すことができる。



図1 「情報活用パワー」の掲示物

「あつめるパワー」「まとめるパワー」「伝えるパワー」とそれぞれ

## イ 「児童が『情報活用の実践力』を意識し習得するための支援」とは

児童が「情報活用の実践力」を意識し習得するために二つの支援を行う。一つ目は「情報活用パワー」を具体的に捉えることができるように可視化と動作化で意識を促す支援である。二つ目は、自己の能力を自覚する振り返りの支援である。

### (ア) 「『情報活用パワー』を具体的に捉えることができる可視化と動作化」とは

児童が、学習過程のどの場面で情報を活用すればよいかと気づき、学習問題を解決するために「情報活用パワー」を活用しようと意識するための支援のことである。そのために授業の導入や「情報活用パワー」を使わせたい学習活動前に、活用させたい観点及び要素を取り上げる。毎時間、黒板の右上に「情報活用パワー」を掲示し、取り上げた「情報活用パワー」を活動の流れに沿って黒板上で掲示物を移動することで、児童がどの「情報活用パワー」を意識したらよいかを視覚的に捉えられるようにする（図2）。さらに、児童が「情報活用パワー」を意識しながら学習活動に取り組めるよう、動きを付けて学級全員で声をそろえて一斉にポーズをとる。ポーズは、イメージをもちやすいよう、児童が考えた動きを取り入れ、学級全体で共有する（図3）。



図2 可視化の様子



図3 動作化の様子  
(まとめるパワー)

### (イ) 「自己の能力を自覚する振り返り」とは

毎時間の振り返りで「情報活用パワー」を自己評価して活用した力について自覚することを通して習得へとつなげる支援のことである。学習で活用した力について、習得状況を自己評価することで、習得した力を自覚することができる。そして、自覚できたことで、活用した時点より、次の活用の際によりよくしようとする。このような自己の能力を高めていく過程を繰り返すことで、習得できたと実感することにつながる。そのために、児童が自分の活動した姿を自己評価するルーブリック（以下、情報活用パワーチェックシート）を用いる（図4）。

情報活用パワーチェックシート（あつめるパワー）			
情報活用パワー	○	◎	☆
さがす力	一つの活のみで、さがしている。	本をほんのり人に聞いたりインターネットで調べたりして、さがしている。	本をほんのり人に聞いたりインターネットで調べたりする時に、目的に合わせて、利を導きだしている。
選ぶ力	さがしたもののなかから、選んでいる。	さがしたもののなかから、自分の力で、必要なものがつかえたり読みたりして、選んでいる。	さがしたもののなかから、自分の力で、必要なものがつかえたり読みたりして、選んでいる。
読み取る力	し料から取ったことを、1つ以上メモしている。	し料から取ったことを、2つ以上メモしている。	できるだけ多く、し料から取ったことを、3つ以上メモしている。

図4 情報活用パワーチェックシート  
(あつめるパワー)

「情報活用パワー」のそれぞれの観点ごとに細分化した三つの要素について、段階は下から○、◎、☆のマークを用いて3段階評価できるようにする。児童が自己評価の判断に悩まないように、自分の活動と評価指標の具体的な姿を照らし合わせる部分を赤色で示しておく。情報活用パワーチェックシートは、授業前に学習者用端末に送信しておき、いつでも見られるようにする。児童は学習で活用できる力について知ること、取組の見通しをもつことができる（図5）。また、単元の学習の中で自分がどの力をどのくらい活用したのかを実感できるように、学びの蓄積ができるカード（以下、情報活用ポイントカード）を用いる（次頁図6）。このカードには、三つのパワーについて丸印が並んでおり、授業で自分が活用したパワーについて色を塗っていく。色を塗っていくこと



図5 自己評価をする児童



## V 実践の概要

### 1 実践計画

#### (1) 実践の対象

勤務校の第4学年1学級28名を対象として実践した。

#### (2) 単元（教材）名

自然災害から暮らしを守る

#### (3) 実践期間

令和3年10月1日（金）～29日（金）（10時間）

### 2 検証計画

検証の視点 「児童の意識」	検証の方法
<b>手立て1 1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫</b> ○「情報活用の実践力」を学習のどの場面でどのように使うのかを意識して取り組んでいる。 「この学習では、どんな情報活用の力を使うのだろう。」 ○自分の「情報活用の実践力」について具体的に判断している。 「今日の活動では、あつめるパワーを使ったら、できたぞ。」 「今日の授業であまりできなかった話す力を、次はもっとよくしたい。」	○事前事後アンケート ○行動観察 ○ワークシート ○情報活用パワーチェックシートでの自己評価 ○情報活用に関する振り返りの記述
<b>手立て2 他教科等の学び方を生かす関連付け</b> ○他教科等の授業や学習活動を思い出して、問題解決をする学習活動に共通点や活用できる点を見付けている。 「この前、△△の授業でやったことと似ているな。」 「□□の教科でも、同じ情報活用パワーを使えるのだな。」	○事前事後アンケート ○行動観察 ○ワークシート

### 3 実践

#### (1) 実践の概要

授業実践は、第4学年の社会科「自然災害から暮らしを守る」で実施した。本単元は、地震災害に対し関係機関がどのような備えや対応をしているのかを理解し、災害から暮らしを守るために自分たちができること（自助）について考える学習である。資料から情報を収集し、関係機関の取組や協力について整理し、自助について考えたことを学習者用端末で「防災宣言」ポスターとしてまとめる10時間の学習の中で、「情報活用の実践力」を育成できると考えた。

実践学級の児童の実態は、学習活動における「収集・読み取り」「整理・解釈」「発信・伝達」の3観点を具体的な言葉で説明しても、言葉の意味の捉えがあいまいであった。また、「情報を活用する」ことを「学習者用端末を操作する」と捉えている児童が多かった。

授業では、手立て1として「体系表」を基に単元指導計画で設定した「情報活用パワー」について、学習過程のどの場面で情報を活用するのかが分かるような可視化や、情報を活用して学習問題を解決していく意識がもてるような動作化を取り入れた。振り返りでは、情報活用パワーチェックシートを使って自己評価を行い、活用したパワーを蓄積できるようにした。また、手立て2として、他教科等の学習活動を結び付けた単元一覧表を基に、既習事項を想起できるような言葉かけや具体物の提示を通して、児童が他教科等で身に付けた力を教科等横断的に活用して問題解決を図る支援を行った。

#### ○ 手立て1 1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫

##### ア 体系表の作成と単元指導計画への位置付け

まず、児童が実際に学習活動で発揮する「情報活用の実践力」について系統的に児童の目指すべき姿を表にまとめた体系表を作成した（図9①）。次に、本実践の社会科の単元を通して「情報活用の実践力」の3観点が生学習活動で設定できると考え、体系表を基に、社会科の単元指導計画の問題解決につながる学習活動に「情報活用の実践力」を位置付けた（図9②）。そして、本単元で育成する「情報活用の実践力」を焦点化し、児童が学習活動で発揮する力となる要素を単元指導計画で設定した（図9③）。

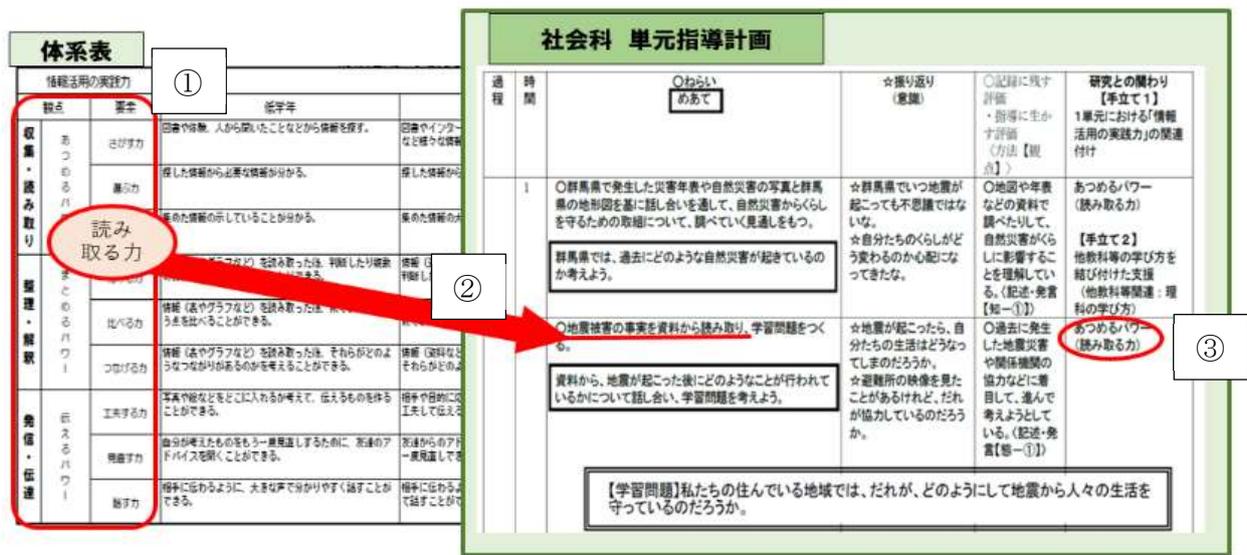


図9 体系表の作成と単元指導計画への位置付け

### イ 児童が「情報活用の実践力」を意識し、習得するための支援

授業の導入や学習活動前の段階で、児童が「情報活用パワー」について可視化や動作化を通して意識できるようにし、授業後には学習活動で活用した力をどの程度習得できたのかを振り返るといった学習の流れを毎時間行った。

単元の「つかむ」過程の第2時では、「情報活用パワー」は、あつめるパワーの読み取る力を設定した。地震後に地方自治体ではどのような取組がされているのかについて話し合い、学習問題を考えるために、地震後の人々の暮らしの様子を資料から読み取る学習活動を設定した。導入でめあてを確認した後、「情報活用パワー」の動作化を行い、児童のこれからの学習で情報を活用するという意識を高めるようにした。そして、資料を読み取る活動の前に、黒板に掲示してある「情報活用パワー」から読み取る力を取り出して提示した。そして、複数の資料から地震後の取組を見つけて学習問題を考えることができるように、1枚の写真为例に全体で資料の読み取り方について確認を行った。写真に写る地震後の取組を丸で囲み、見えるものや様子を短い言葉でメモをする読み取り方について全体に指導した（図10）。そして、メモした言葉から、児童の疑問が出るように声をかけた。授業の終末において、社会科としての振り返りと同時に情報活用パワーチェックシートで読み取る力について自己評価を行う時間を設けた。その際、児童が「情報活用パワー」を具体的に振り返ることができるように「資料を読むときにどのようなことをしたのか。」問いかけた。

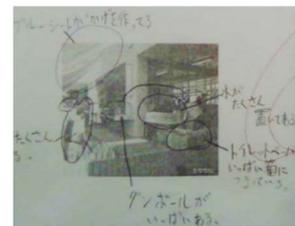


図10 第2時のワークシート

単元の「追究する」過程の第6時は、「情報活用パワー」のまとめるパワーのつなげる力が発揮できる活動を設定した。本時は、資料から読み取った事柄と群馬県危機管理室の職員の話の内容とを結び付けて、群馬県が関係機関と連携して大地震が起こった際に行う取組について考える学習活動であった。

まず、これまでの学習を生かして、群馬県危機管理室の写真から地震に対する取組に関わるものを見付ける時間を設定した。次に、見付けたものが地震対策の何に関わるものなのかと予想した後、群馬県危機管理室の職員が説明する動画を視聴し事実を確認した。そして、予想したことと事実を関連付けていく活動を取り入れた(図11)。児童のワークシートには、左側に資料から読み取った事柄を記入できるようにし、右側に群馬県危機管理室の職員の話を実事として記入できるようにした。そして、黒板上で実際に線をつなぎながら関連性を捉えることを一斉で確認した後、個人で関連性を見付ける活動を行った。

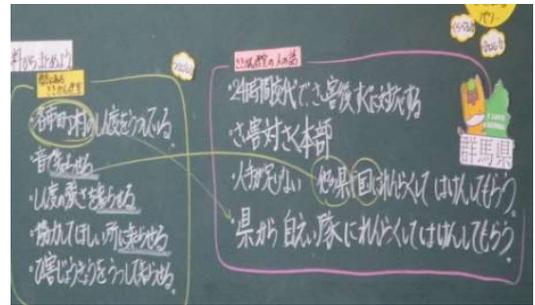


図11 第6時の板書の様子

単元の「まとめる」過程の第9時は、これまでの学習のまとめとして、前時に自分や家族ができる防災について話し合い、自助について考えた「防災宣言」を学習者用端末で制作する活動を設定した(図12)。「情報活用パワー」は、伝えるパワーという観点だけを設定し、その中でどのような力を使って学習に取り組んでいくのかは、児童が選択できるようにした。「防災宣言」を作成する際には、「見る相手を意識する」視点をもたせたところ、児童から「防災宣言を地域の人に見せたい。」との意見が出てきたので、防災宣言を見せる相手は、地域の代表として話を聞いた桂萱公民館館長とした。また、防災宣言を作成している過程で、相手に合わせてどのように自分の考えを伝えたらよいのか考えられるように、工夫している点や見せ方について交流する場を設定した(図13)。



図12 「防災宣言」を作成する児童



図13 交流し合う児童

○ 手立て2 他教科等の学び方を生かす関連付け

ア 他教科等の学び方を結び付けた単元一覧表への位置付け

本単元の学習で、他教科等の既習事項が活用できるか整理した。指導者は実践学級とは1単元での関わりのため、既習事項を社会科の学習で活用できる場は限られてはいたが、理科の観察の仕方と国語科の聞き取りの工夫に関する既習事項が情報を活用

教科	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科	春の楽しみ② 聞き取りメモのくふう	春の楽しみ② 聞き取りメモのくふう																
理科	季節と生物① 春の始まり 1. 天気と気温④																	
社会科	4-3 自然災害からくらしをまもる 収集・読み取り、整理・解釈 発信・伝達																	
音楽科	歌の楽しみ② 聞き取りメモのくふう	歌の楽しみ② 聞き取りメモのくふう																

図14 単元一覧表への位置付け

する際の「収集・読み取り」に関連付けられると考えた。そこで、社会科の学習で扱う「情報活用の実践力」と他教科等の既習事項とで一致しているものを整理し、単元一覧表で明

記して、授業内で情報を活用する活動を計画的に扱った。また、本単元の学習を通して、「情報活用の実践力」を意識し習得できれば、社会科の学び方を他教科等で活用することができると考えた。そこで、音楽科の単元「おはやしづくりにチャレンジ」での学習活動と関連付けた。音楽担当者と相談の上、単元前半「リズムを聞き合う活動」と「楽器を選ぶ活動」に設定した（前頁図14）。

### イ 他教科等の学び方を活用するための支援

第1時では、児童が資料を読み取る際に留意することを理解できるようにするために、理科の観察で使う虫眼鏡を提示した。それは、虫眼鏡の効果を例に挙げることで、児童にとって資料を読み取るためにはどういふことをするのが明確になり理解しやすくなると考えたからである。そこで、児童が学習者用端末の画像資料を拡大して写っている物や人が何をしているのかを注目できるように、「虫眼鏡を使って物を見るように、地震後の取組について資料を詳しく読み取ろう。」と声をかけてから、資料を読み取る活動に入った。

第4時では、地震に対する地域の取組をまとめるために、桂萱公民館館長のインタビュー動画を音声資料として情報を収集する活動を実施した。聞き取った情報を漏らさずに収集するために、聞き取りの工夫を活用することに気付けるよう、拡大した国語科の教科書を提示し（図15）、メモの取り方を一斉で確認した。そして、国語科で身に付けた力を発揮する場面となるように、活動に入る前に「聞き取りメモの工夫で学習したことを使って、公民館の取組について調べよう。」と声をかけた。その後、個人で音声資料から情報を収集する活動を行った（図16）。



図15 拡大した教科書の提示



図16 音声資料を聞き取る児童

## (2) 結果と考察

### ○ 手立て1 1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫

授業計画に沿って児童が単元の学習活動に応じて情報を活用しながら学びを進め、自分の「情報活用の実践力」について具体的に判断している姿を検証するために、ア抽出児童（A児・B児）の変容とイ事後アンケートの2点からその有効性を述べる。

#### ア 抽出児童の変容

A児とB児の変容を、社会科のワークシートの記述と情報活用パワーチェックシートによる自己評価及び情報活用に関する振り返りの記述から検証する。

#### (7) A児の変容から

A児は、事前アンケートで「情報活用の実践力」の「収集・読み取り」は「できる」、「整理・解釈」「発信・伝達」の二つの観点について「少しできる」と答えていたことから、集めた情報をまとめたり考えを伝えたりすることに対する自己評価が低いことが分かる。

第2時では、資料「大地震後の学校の避難所の様子」の読み取りを行った。資料を個人で読み取る活動では、A児はワークシートに「人がたくさんいる。」と「人が座れるシートがたくさんある。」と二つの文を記述していた。資料からの視覚的情報により、大勢の避難者に注目をしていることが分かる。二つの文を比べると、資料に映る避難者の様子を全体から読み取り、二つ目の文では、避難所で対応している物資のブルーシートに注目し

たことが分かる。これは、読み取る力について一斉で確認する場を設定したことで、A児が「読み取り」について具体的に捉えられたからだと考える。学習後に「読み取る方法」について、「資料を拡大したり印をつけたりした。」と答えていた。自分なりの言葉で取り組んだことを説明していることから、A児は読み取る方法を理解できたことが分かる。理解したことで意識が高まり、二つ目の文を追加したと考える。本時の「読み取る力」についての自己評価は一番高い☆マークであった。このことから、A児にとって「読み取る力」が習得できたという実感につながったと考える。そして、学習に対する振り返りでは、「自然災害が起きたときに助けてくれる人が誰なのか知りたくなった。」と記述していた。これは、これから地震について学習していく際、様々な機関の備えや対応について調べる視点であり、つかむ過程での「読み取り」から疑問をもって学習問題を設定することができたものとする。

第6時では、資料から読み取った事柄と群馬県危機管理室の職員の話とで関連付けられるところを複数の線で見つけていた。「被害状況を知らせる。」という読み取った事柄について「他の県や国に連絡して派遣してもらおう。」と「県から自衛隊に連絡して派遣してもらおう。」の二つの文につなげていた。A児にとって「派遣」という言葉の意味や国との関わりが捉えづらかったため、同じような取組を一つにまとめたと考える。第6時のつなげる力について自己評価を中間の◎に付け、下線部のように、学習の中で情報を活用する力を身に付けていきたい気持ちが高まっていることが分かる(図17)。

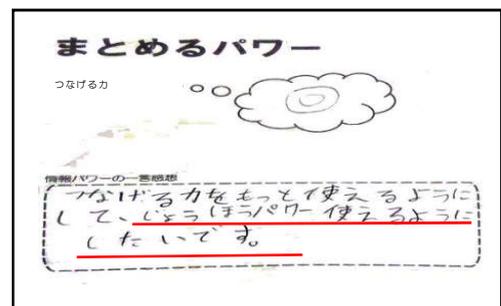


図17 第6時のA児の自己評価

次時の第7時では、地域、前橋市、群馬県の地震に対する取組のまとめとして、大地震が起きたときの対応を考えた。A児は、各機関の取組について、時系列ではなく、その機関が何をするのかと学習したことを基につなげてまとめていた(図18)。学習に対する振り返りでは、「地震が起きたときは県・市・地域が協力して対応していることが分かった。」と記述していた。第7時

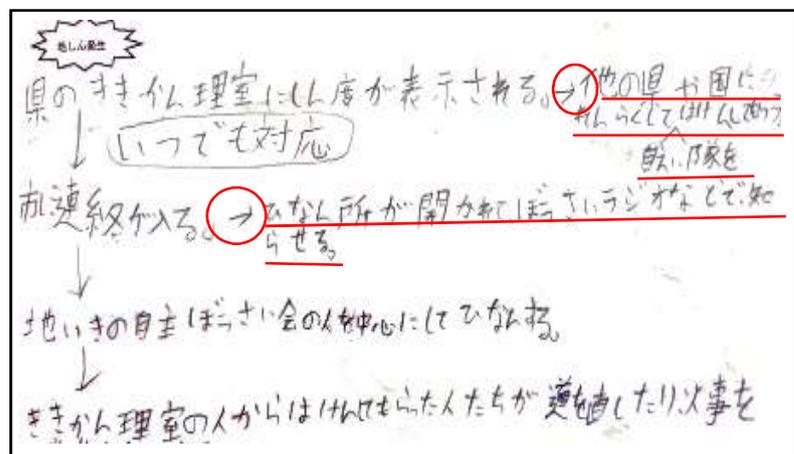


図18 第7時のA児のワークシート

の自己評価では、第6時と同じで中間の評価の◎を付けていた。そして、次の学習に生かそうと自ら目標を立てていた(図19)。これは、学習問題を解決するために、「情報活用パワー」を活用することが必要だという意識をもち始めたからだと考える。

第9時では、「防災宣言」を作成する際、伝えるために工夫したこととして、「防災宣言で書いた文と同じ写真(実

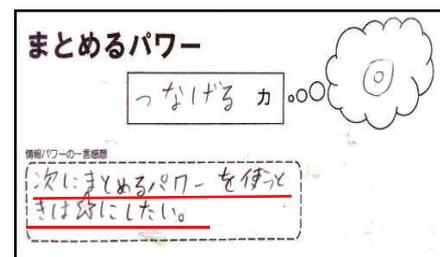


図19 第7時のA児の自己評価

際はイラストを使用)にした。文字を大きくした。」と記述していた。友達からは「空いているスペースに文字を足すといいよ。」とアドバイスをもらっていた。

情報活用に関する自己評価を図 20 で示す。A 児は「見直す力」を選択し、友達からのアドバイスを基に修正したことによって、自分が作成したものを受け取る相手がいることを意識して取り組んだと考える。伝えるために客観的な視点を取り入れる大切さを理解したことが下線部からも分かる。単元のまとめとして、自分が考える自助を大きな文字で表した成果物を仕上げることができた(図 21)。

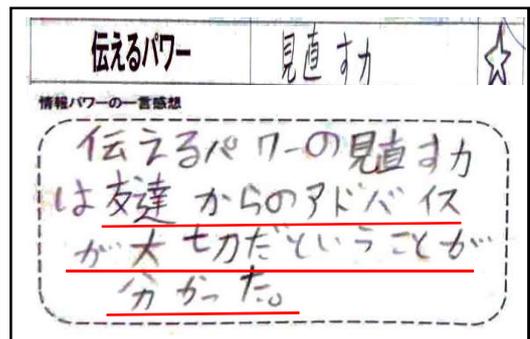


図 20 第 9 時の A 児の自己評価

このように、事前アンケートでは自己評価が低かった観点のまとめるパワーを 3 段階の中間の評価にし、単元の終末で伝えるパワーを一番上の評価にする A 児の変容が見られたのは、可視化や動作化を取り入れたことにより、A 児が「情報活用パワー」について、意識をもち始めたからだと考える。そして、「情報活用パワー」が学習に役立つと気づき、徐々にどのように活用するといったのか理解を深めていったこともうかがえる。その経験を積むことで、情報を集めたり、自分の考えを整理してまとめたりして、伝えることができるようになってきたと考える。



図 21 A 児が作成した「防災宣言」

### (イ) B 児の変容から

B 児は、事前アンケートで「情報活用の実践力」の「収集・読み取り」は「できる」、「整理・解釈」は「少しできる」、「発信・伝達」については、「あまりできない」と答えていたことから、自分の考えたことを相手に伝えることを苦手としているようであった。

第 2 時では、資料の読み取りでは「服が干してある。」と目に留まった情報を記述していた。地震後の様子から、どうしてこのような事態になっているのかと考えるまでには至っていなかった。そして、学習に対する振り返りでは、「自然災害が起きると、水がなくなったり家が壊れてしまうということが分かった。」と記述している。このことから、資料を十分に読み取り、めあてを達成するまでには達していないことが分かる。しかし、読み取る力についての自己評価は一番高い☆マークであった。このことから、「情報活用パワー」についてよく分からないまま自己評価していることが分かる。しかし、B 児にとっては、初めて「読み取る力」を意識し、情報を活用して取り組むことができたと自覚していると考えられる。

第 6 時では、資料から読み取った事柄と群馬県の危機管理室の職員の話とを関連付ける活動において、ワークシートに指導者の板書と同じところで線をつないだだけであった。しかし、学習の振り返りでは、「群馬県は、他の県や国などと協力していることが分かった。他の県も群馬県と同じように協力し合っているのか気になった。」と記述していた。

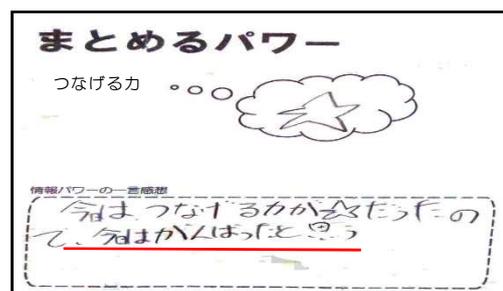


図 22 第 6 時の B 児の自己評価

B児個人では関連付けるための線をつなぐという学習活動が進まなくとも、その後に学級全体で友達の意見に触れたことで、群馬県の取組について調べて考えをまとめることができた。そして、B児自身が授業で学んだことを整理し、新たな疑問をもつことができたと考える。「つなげる力」に対する自己評価は前頁図 22 のように☆を記述し、下線部のように「情報活用パワー」を習得したことで、達成感を味わっていたことが分かる。

その後の第7時で、大地震が起きたときの対応について、各機関の取組をつなげて考えていた。第8時の、友達と交流して、自助について自分や家族でできる備えを考える学習で、B児は「家の電話番号を覚えておく。」と記述していた。第7時、第8時の情報活用に関する振り返りは図 23 である。

時間	情報活用パワー	活用した力	評価	記述
第7時	まとめるパワー	つなげる力	☆	たくさんつなげる力を使った。
第8時	まとめるパワー	つなげる力	◎	比べる力がしっかりできた。
	まとめるパワー	比べる力	☆	

図 23 第7・8時のB児の自己評価

第8時では、活用した力を「つなげる力」とB児自ら選択し、矢印で示したように評価を一段階下げていた。活動内容の違いはあるが、自己の能力を自覚し捉えたことが分かる。また、活用した力は他にもあ

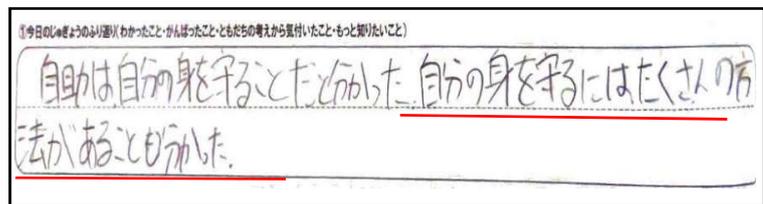


図 24 第8時のB児の振り返り

ると考えて、丸印で示したように「比べる力」と自ら選択して自己評価していた。そして、図 24 の下線部のように、学習の振り返りでは友達との交流を通して気付いたことを基に、自分の学びをまとめている。

第9時では、伝えるために工夫したこととして、背景の色を白色から水色に変えたと記述していた。それは、友達から「背景の色を変えた方がいい。」とアドバイスをもらっていたためである。授業後の振り返りでは、図 25 のように記述していた。単元当初からよく分からないまま自己評価を高くしていたB児であ

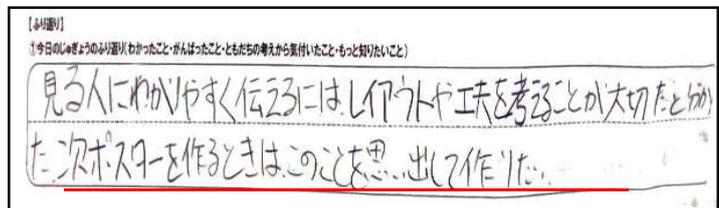


図 25 第9時のB児の振り返り

ったが、学習を通して下線部のように分かったことやできたことを次に生かしたいという意欲が高まっていた。それは、「情報活用パワー」を習得したという事実だけでなく、学んだことが積み重なり、「できた」という自信を得たり、「もっとできるようになるためにはどうすればいいのか。」と向上心を抱いたりしたことが学ぶ意欲にもつながったと考える。そして、「収集・読み取り」「整理・解釈」について身に付けた力を自覚し、次の活用の際によりよくしようと繰り返し学習に取り組んだことで自信がつき、実践前は「発信・伝達」の自己評価が低かったB児も、修正を繰り返し粘り強く「防災宣言」を仕上げることができた(図 26)。

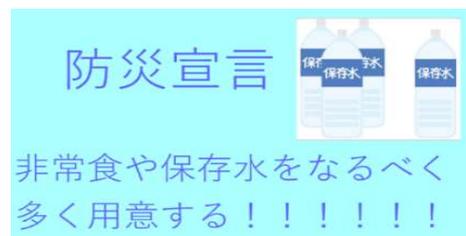


図 26 B児が作成した「防災宣言」

このようなB児の変容の要因として、「情報活用の実践力」を自覚するための学びの蓄積をした情報活用ポイントカードの効果が考えられる。それは、B児が身に付けた「情報活用の実践力」について自覚し、学習活動に応じて習得した力をさらに活用したからであ

る。身に付けた力をよりよくしようと繰り返し活用したことで、習得できたという自信につながった。そして、問題解決に向けた学習に「情報活用の実践力」を意欲的に活用し、身に付けた力をさらに高めようとしていた。それは、単元末のB児の情報活用ポイントカードからも、学習を重ねていく中で「情報活用パワー」を積極的に活用していたことが分かる(図27)。このことからB児が社会科の学習に「情報活用の実践力」を関連付けて取り組むことができたものとする。

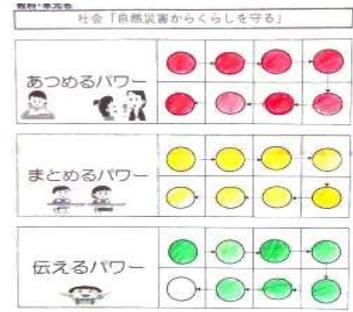


図27 B児の情報活用ポイントカード

### イ 事後アンケート

児童が「情報活用の実践力」を可視化や動作化で意識し、身に付けた力を自覚する振り返りを通して習得につなげるために、児童にどのような支援が効果的であったのかを検証する。複数回答で「『情報活用の実践力』を授業で活用するとき役立つ支援」についてアンケートを行った(図28)。項目は、「他教科等の関連」は既習事項の活用に向けた支援、「可視化」は情報活用パワーの提示、「動作化」は情報活用パワーのポーズ、「自己評価」は情報活用パワーチェックシートの振り返り、「学びの蓄積」は情報活用ポイントカードの色塗りである。

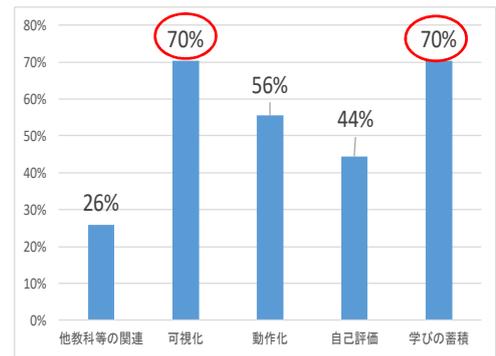


図28 支援についての効果

今回のアンケートでは、可視化と学びの蓄積が70%と一番高かった。それは、児童にとって分かりやすい言葉で「情報活用の実践力」を学習の流れに沿って提示したことにより、「情報活用の実践力」を「情報活用パワー」として明確に理解できたためであるとする。そして、活用した力について児童が蓄積している状況を視覚的に捉えられたことで、意識した「情報活用パワー」をさらに習得し活用していったと考えられる。

また、具体的にどのような支援がどのように役立つのかについて、記述によるアンケートから検証する。「情報活用パワー」を毎時間可視化と

表2 役立つ理由(可視化と動作化)

- ・今日はこれをやるのかと意識した。
- ・動きで覚えられた。

動作化したことについての記述が表2である。波線部から、児童が学習の中で活用する力について意識を働かせていたことが分かる。情報活用パワーチェックシートの自己評価と情報活用ポイントカードで活用した力を蓄積していく支援についての記述が表3である。波線部のように、児童が自己の能力を捉えて、自覚するための基準となっていたことが分かる。下線部では、児童が身に付けた力をさらに活用しようとしたり、調整したりしていたことが分かる。

表3 役立つ理由(自己評価と学びの蓄積)

- ・今日どれだけがんばったか見ることで、次の目標にもなった。
- ・どのようなことができていると☆なのかが具体的に書いてあって分かりやすかった。
- ・使うパワー以外にもちがうパワーを使って丸を塗ろうと思った。
- ・一番少ないのがあれば、次の授業で使おうと思った。

以上のことから、児童が自己評価する際に自分の主観ではなく、ルーブリックに合わせたことで、自己の「情報活用の実践力」についてより明確に自覚できたと考える。また、自己評価の判断をすることが難しい児童にも、何ができているとどの評価になるのかと理解しやすかったようであった。よって、児童が「情報活用の実践力」を具体的に捉えて理

解し、学習活動の中で「情報活用の実践力」を意識し習得するために、手立て1の1単元における「情報活用の実践力」の指導の工夫は有効であったと考える。

### ○ 手立て2 他教科等の学び方を生かす関連付け

児童の「他教科等の授業や学習活動を思い出して、共通点や活用できる点に気付いたり、問題解決に生かしたりしている姿」を検証するために、ア他教科等の学び方を活用する児童の変容とイ事後アンケートの2点からその有効性を述べる。

#### ア 他教科等の学び方を活用する児童の変容

C児は、事前アンケートで「情報活用の実践力」の「収集・読み取り」「発信・伝達」は「できる」、「整理・解釈」は「少しできる」と答えていたことから、集めた情報の整理や整理したことから自分の考えをまとめることの自己評価が低いことが分かる。

第4時では、公民館の取組について、インタビューの映像資料から情報収集をする際、国語科の「聞き取りメモの工夫」を関連付けて、聞き取りの工夫を活用する場面を設定した。

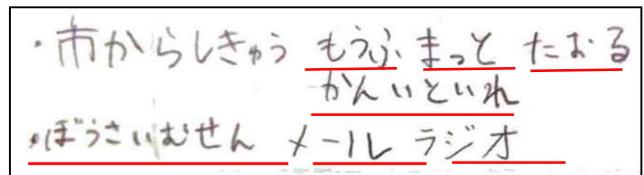


図 29 第4時のC児のメモの様子

ワークシートからは、短い言葉で聞こえた単語のみを書いており、聞き取った情報を漏らさずメモができていたことが分かる(図29)。しかし、その後の活動で、メモしたことを基にして地域の取組をまとめることにつながっていなかった。

第6時では、群馬県危機管理室の取組について、第4時と同様に音声資料から情報を収集する活動を設定した。そこでは、C児が自然とメモを取る姿が見られ、矢印でつなげたり、地震後の対応について関連付けたりしながらメモを取っていた

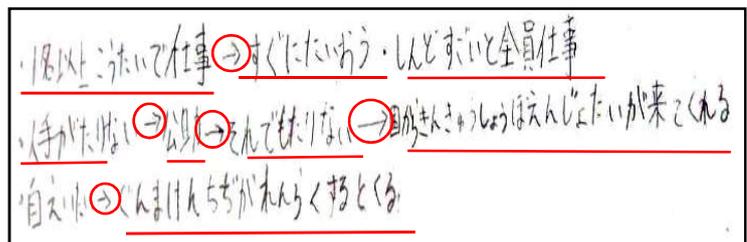


図 30 第6時のC児のメモの様子

ことが分かる(図30)。そして、資料から読み取ったことと聞き取った事実を関連付けて、群馬県の取組をまとめることができた。指導者が教科内で終わっていた学習を他教科で想起させたり関連付けさせたりしたことで、C児はその後の学習でも、国語科で身に付けた力が活用できると分かり、進んで自らの学習でも活用することにつながったと考える。

#### イ 事後アンケート

実践後、児童に「学習したことや身に付けたことを他教科等で活用しているか。」についてのアンケートを行った。9割以上の児童が、他教科等との関連を意識して身に付けた力を活用して学習していることが分かる(図31)。

これは、国語科の聞き取り方の視点や理科の観察する視点を活用して社会科の学習に取り組んだ経験を通して、他教科で身に付けた力を活用しようという気持ちが働いたと考える。児童が他教科等の既習事項をどのように関連付けているのかを検証するために、具体的に「学習場面でどのよう

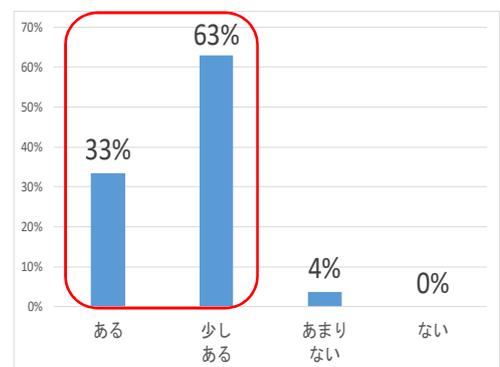


図 31 身に付けた力を他教科等で活用した割合

に活用していたのか。」について記述で答えたものが表4である。

表4 各教科等で身に付けた力を学習でどのように活用したのかについて（実践後）

- |  |
|--|
| <p>○国語の読む力を、算数などで読むときに（使って）<sup>①</sup>、すごく読みやすくなった。<br/>○算数のじゅ業の「グラフ」のところを理科の「温度」のところを使ってまとめた。<sup>②</sup><br/>○国語のじゅ業で要約の仕方について学習したことを、インターネットで調べた時（の）長い文章を要約した。<sup>③</sup></p> |
|--|

児童の記述から、①のように教科等の学びを分断することなく、学びのつながりを意識し、活用することのよさを実感していることが分かる。②のように児童が他教科等の既習事項を活用して、具体的にどのようなことができたのかを捉えていることが分かる。これは、学習活動において、「情報活用の実践力」を使おうとする意識が高まっていることが考えられる。③からは、教科等で身に付けた力を、自分で活用する場を選択して学ぶ姿が見られる。これらのことから、他教科等の既習事項を児童自ら関連付けて学ぶことができるようになったと考える。

以上のことから、他教科等の既習事項を生かしたことで、児童が学び方の共通点や活用できる点に気付き、問題解決に向けて自ら活用することができた。よって手立て2の他教科等の学び方を生かす関連付けは有効であったと考える。

#### ○ 手立て1と2を通して

二つの手立ては有効ではあったが、そのままでは児童が「情報活用の実践力」を意識し、活用して習得するサイクルを認識できるまでには至らないと考える。それは、手立て1のイ事後アンケートによる「支援についての効果」の図28で示したように、「情報活用の実践力」を学習で活用する際に、他教科等関連の支援が役立ったと答えた児童は26%に留まったからである。児童は他教科等で身に付けた力を活用する際に、情報を活用しているとは捉えていなかった。それは、児童にとって各教科等で身に付けた力は、その教科等の中でのみの活用に留まる取組であったことが要因と考える。しかし、本実践を通して、学習で「情報活用の実践力」を意識し、活用して習得につなげるために、他教科等の授業や学習活動を想起し、共通点や活用できる点があることに気付く経験を重ねたことで、音楽科でも情報を比べて活用する姿が見られた。このように教科等横断的に関連付けながら、児童が「情報活用の実践力」を習得したり活用したりすることができるようにしていくことは重要であると考えられる。

## IV 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本研究は、1単元に「情報活用の実践力」を位置付けて授業を計画し、児童が学習を通して「情報活用の実践力」を意識したり活用したりすることを繰り返すことで、児童の「情報活用の実践力」の育成につながると考えたものである。指導者は、体系表を基にした情報活用能力を育成するための視点をもつことができた。指導者の意図的な問いかけや「情報活用の実践力」を学習に位置付けることで、児童が意識し、身に付けた力を活用したことを振り返り、習得するサイクルを繰り返すことができた。これまで教科等の枠組み内で学習を完結していた経験のみの児童にとっては、実践授業の当初は驚く様子もあった。し

かし、単元一覧表を基に他教科等での学び方を結び付けて支援を行ったことで、児童は身に付けた「情報活用の実践力」が様々な場面で活用できるということを徐々に理解し、意識することができた。そして、身に付けた力を他教科等の学習で活用できたことで、教科等の学びのつながりにも気付くようになったと考える。

図 32 は実践授業後、「情報活用パワー」が身に付いたと思う児童の割合であり、9 割以上の児童が身に付いたと自覚している。表 5 は身に付いたと児童が思う理由の抜粋である。下線部から「情報活用の実践力」を学習の中で意識して活用していることを自覚している児童が多かった。以上のことから、本研究の手立ては、「情報活用の実践力」を育成する取組として有効であったと考える。

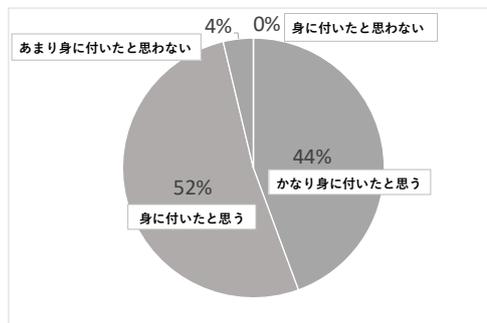


図 32 「情報活用パワー」が身に付いたと思う児童の割合

表 5 「情報活用の実践力」が身に付いたと思う理由（一部抜粋）

- 他の授業で、あつめるパワーまとめるパワー伝えるパワーを使えるようになったから。
- 特に国語の時間、「今日はこのパワーだ。」と思ってやっています。
- 他の授業で少し情報パワーを考えるようになったから。

## 2 今後の課題

児童に身に付けさせたい「情報活用の実践力」を具体的に設定した上で、社会科の授業実践を行ったが「情報活用の実践力」をどう使っていいのかわからない児童もいた。本研究で、児童は初めて「情報活用の実践力」という考え方に触れ、それを学習に生かそうとしたように思われた。今後は情報を活用して学びを深める経験を児童が繰り返し積めるようにしていくことが大切だと考える。

日常生活で「情報」という言葉が先行し、情報機器の操作ができることが「情報を活用している」と捉われがちである。このことから、どの教科等のどのような活動で「情報活用の実践力」を系統的に育成していくのかを学校全体で考え、取り組む必要があると感じている。そして、より一層、教科等横断的な学習のつながりを見据えて、指導に当たる必要がある。

### 〈引用・参考文献〉

- 群馬県教育委員会義務教育課（2019）. はばたく群馬の指導プランⅡ
- 文部科学省（2013）. 情報活用能力調査
- 文部科学省（2018）. 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編 東洋館出版社
- 文部科学省（2020）. 教育の情報化に関する手引-追補版-
- 山川拓・浅井和行（2020）. 小学校校学習指導要領 [2020] の理念を踏まえた情報活用能力育成を目指した授業開発 教育メディア研究

【資料1】「情報活用の実践力」の体系表

情報活用の実践力		児童の目指す姿		
観点	要素	低学年	中学年	高学年
収集・読み取り	さがす力	図書や体験、人から聞いたことなどから情報を探す。	図書やインターネット上のサイト、インタビュー、新聞等 など様々な情報手段を正しく活用して情報を探す。	図書やインターネット上のサイト、新聞等など様々な情報 手段から、目的や計画等にあった手段で情報を探す。
	選ぶ力	探した情報から必要な情報が分かる。	探した情報から必要かどうかと考えて選ぶ。	課題に応じて探した情報を選択したり追加したりする。
	読み取る力	集めた情報の示していることが分かる。	集めた情報の大事な事柄が分かる。	複数ある情報から必要な情報を読み取ったり、大事な事柄 を見つけたりすることができる。
整理・解釈	分ける力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、判断したり複数の 情報の情報を分類（仲間分け）したりできる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせて 判断したり複数の情報を分類（仲間分け）したりできる。	情報（資料など）を読み取った後、判断したり複数の情報 を分類（仲間分け）したりして、目的を意識して評価・改 善しながら取り組むことができる。
	比べる力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、似ている点や違 う点を比べることができる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせて 似ている点や違う点から比べることができる。	情報（資料など）を読み取った後、似ている点や違う点か ら比べて、目的を意識して評価・改善することができる。
	つなげる力	情報（表やグラフなど）を読み取った後、それらがどのよ うなつながりがあるのかを考えることができる。	情報（資料など）を読み取った後、目的や視点に合わせて それらがどのような関係なのかを考えることができる。	情報（資料など）を読み取った後、それらがどのような関 係なのかを考えて、目的を意識して評価・改善することが できる。
発信・伝達	工夫する力	写真や絵などをどこに入れるか考えて、伝えるもの（ポス ターやスライドなど）を作ることができる。	相手や目的に応じて、写真や図の大きさや文字の色などを 工夫して伝えるもの（ポスターやスライドなど）を作るこ とができる。	相手や目的に応じて、自分の意図が伝わるように写真や 図、文字の位置や大きさを工夫して伝えるもの（リーフ レットやスライドなど）を作ることができる。
	見直す力	自分が考えたものをもう一度見直すために、友達のアドバ イスを聞くことができる。	友達からのアドバイス参考に、自分が考えたものをもう 一度見直しできる。	友達からのアドバイス参考に、自分が考えたものをもう 一度修正したり再構成したりすることができる。
	話す力	相手に伝わるように、大きな声で分りやすく話すことが できる。	相手に伝わるように、声の大きさや間の取り方に気を付け て話すことができる。	相手に伝わるように、身振りや声の抑揚など工夫を取り入 れて話すことができる。

【資料2】「情報活用の実践力」の体系表を基にした社会科の単元指導計画

過程	時間	ねらい めあて	☆振り返り (意識)	○記録に残す 評価 ・指導に生か す評価 〈方法【観 点】〉	研究との関わり 【手立て1】 1 単元における 「情報活用の実 践力」の関連付 け
つかむ	1	○群馬県で発生した災害の年表や自然災害の写真と群馬県の地形図を基に話し合いを通して、自然災害から暮らしを守るための取組について、調べていく見通しをもつ。  群馬県では、過去にどのような自然災害が起きているのか考えよう。	☆群馬県でいつ地震が起ころうと思っても不思議ではないな。 ☆自分たちの暮らしがどう変わるのか心配になってきたな。	○地図や年表などの資料で調べて、自然災害が暮らしに影響することを通して理解する。〈記述・発言【知一①】〉	研究との関わり 【手立て1】 1 単元における 「情報活用の実 践力」の関連付 け
	2	○地震による被害の事実を資料から読み取り、学習問題をつくる。  資料から、地震が起こった後にどのようなことが行われているかについて話し合い、学習問題を考えよう。  【学習問題】私たちの住んでいる地域では、だれが、どのようにして地震から人々の暮らしを守っているのだろうか。	☆地震が起こったら、私たちの暮らしはどうなるのだろうか。	○過去に発生した地震災害や関係機関の協力などに着目して、進んで考えようとする。〈記述・発言【態一①】〉	あつめるパワー (読み取る力)  【手立て2】 他教科等の学び方を結び付けた支援 (他教科等関連：理科の学び方)
追究する	3	○学習問題についてこれまでの生活を振り返り、様々な機関が対応していることを話し合い、学習計画をたてる。  学習問題について、予想したり解決したりする方法を話し合ったりして、何について調べればよいか考えよう。	☆家で地震について家具を固定しているな。 ☆学校は避難訓練をやっているな。 ☆地震が起こる前と起った後で違うのかな。	○過去に発生した地域や自然災害や関係機関の協力などに着目して、予想や調べの方法を具体的な学習計画表を現している。〈記述・発言【思一①】〉	まとめるパワー (分ける力)
	4	○地震から暮らしを守るためにやっている地域の取組について調べ活動を通して、互いに助け合う「共助」と関係機関との関わりを考える。  地震から暮らしを守るために、地震が起こる前と後で地域がどのような取組をしているのか調べてまとめよう。	☆地域は災害から暮らしを守るため、自分たちでできることに取組み、助け合う準備をしているのだな。	・地域は地震に対して様々な備えをしていることを理解している。〈記述・発言【知一②】〉	あつめるパワー (探す力・選ぶ力・読み取る力) 【手立て2】 他教科等の学び方を結び付けた支援 (他教科等関連：国語科の学び方)

	5	<p>○地震から暮らしを守るための前橋市の取組について調べる活動を通して、市民の暮らしを守る活動である「公助」について考える。</p> <p>前橋市がどのような取組をしているのか調べてまとめよう。</p>	<p>☆地震が起こる前と起こった後で、市はどんなことをしているのか気になるな。</p>	<p>・前橋市は地震に対して備える様々ないことを理解している。〈記述・発言【知一②】〉</p>	<p>まとめるパワー（比べる力）</p>
	6	<p>○大地震に対する県や国の取組について気付いたことをまとめる活動を通して、市民の暮らしを守る活動である「公助」について考える。</p> <p>大地震が起こったときの群馬県の取組について資料からまとめよう。</p>	<p>☆わたしたちの暮らしを守るために、多くの立場や役割が協力してくれるから、安心して気持ちになるな。</p>	<p>・群馬県は地震に対して備える様々ないことを理解している。〈記述・発言【知一②】〉</p>	<p>まとめるパワー（つなげる力）</p>
まとめる 本時	7	<p>○これまでに学習したことをまとめ、地震災害が起こったことを具体的に予想する活動を通して、様々な機関が対応するために連携し合っていることへの考えを深める。</p> <p>これまでの学習をもとに、大地震が起こったときの対応を考えていき、学習問題を解決しよう。</p>	<p>☆自分たちの暮らしを守っている様々な人たちが役割があることが分かり、自分ができることも準備しておかないな。</p>	<p>○学習計画に基づいて調べた内容を根拠として、学習問題の答えを考えて、表現している。〈記述・発言【思一①】〉</p>	<p>まとめるパワー（児童が選択する）</p> <p>【手立て2】 他教科等の学び方を結び付けた支援（他教科等関連：国語科の学び方）</p>
	8	<p>○「共助」と「公助」の関係から「自助」を捉え、大地震に備えて自分たちができることについて考える活動を通して、防災について考える。</p> <p>大地震に備えて、自分や家族ができることについて話し合い「自助」について考えよう。</p>	<p>☆いつ起こるか分からない災害だから、自分たちができることを考えよう。</p>	<p>○地震から暮らしを守るために自分ができることを考えて選択・判断して表現している。〈記述・発言・ポスター【思一②】〉</p>	<p>まとめるパワー（児童が選択する）</p>
	9	<p>○「自助」について考えたことを伝える活動を通して、防災を意識して行動することの大切さに気付く。</p> <p>自助について考えたことが見る人に伝わる「防災宣言」を作ろう。</p>	<p>☆いつ起こるか分からない災害だから、自分たちができることをしっかりと呼びかけよう。</p>	<p>○自分が考えた防災対策を分かりやすく表現している。〈記述・発言・ポスター【思一①】〉</p>	<p>伝えるパワー（児童が選択する）</p> <p>【手立て2】 他教科等の学び方を結び付けた支援（他教科等関連：国語科の学び方）</p>
	10	<p>○「防災宣言」の実行に向けてすぐに行動できそうなことが何かを考える活動を通して、防災に対する考えを深める。</p> <p>自分が考えた「防災宣言」を達成するために、これからできる行動を考えよう。</p>	<p>☆いつ起こるか分からない災害に対して、大切な行動があるな。</p>	<p>○学習したことを生かして、自分たちにできることを考えている。〈記述・発言【態一②】〉</p>	<p>伝えるパワー（児童が選択する）</p>

【資料3】 「情報活用パワーチェックシート」

### 情報活用パワーチェックシート（あつめるパワー）

情報活用パワー	○	◎	☆
さがす力	一つの方法のみで、さがしている。	本を読んだり人に聞いたりインターネットで調べたりして、さがしている。	本を読んだり人に聞いたりインターネットで調べたりする時に、目的に合わせてし料を進んでさがしている。
選ぶ力	さがしたものをそのままにしている。	さがしたもののから、自分にとって、必要なものかどうかと見返したり読み返したりしている。	さがしたもののから、自分にとって、必要なものかどうかと見返したり読み返したりして、選んでいる。
読み取る力	し料から気づいたことを1つ以上メモしている。	し料から気づいたことを2つ以上メモしている。	画宙を拡大して注意深く見たり、し料から言えることを考えたりして、気づいたことを3つ以上メモしている。

### 情報活用パワーチェックシート（まとめるパワー）

情報活用パワー	○	◎	☆
分ける力	まとまりごとに考えて、なかま分けが3つ以上できる。	まとまりごとに考えて、なかま分けが4つ以上できる。	まとまりごとに考えて、なかま分けが5つ以上できる。
くらべる力	自分の考えと、にている点やちがう点をくらべることができる。	自分の考えと、にている点やちがう点をくらべて、自分の考えをまとめることができる。	にている点やちがう点とくらべて、これまでの考えに取り入れながら、自分の考えをもう一度まとめることができる。
つなげる力	これまでに学んだものから関係しているもの同士を見つけることができる。	これまでに学んだものから関係しているもの同士をつなげて、自分の考えをまとめることができる。	これまでに学んだものから関係しているもの同士をつなげて、これまでの考えに取り入れながら、自分の考えをもう一度まとめることができる。

### 情報活用パワーチェックシート（伝えるパワー）

情報活用パワー	○	◎	☆
工夫する力	写真や図、文章などの位置や大きさ、色などの工夫しようと考えて取り組んだ。	写真や図、文章などの位置や大きさ、色など、どうやったら相手に伝わりやすいのかを考えながら工夫して取り組んだ。	自分の考えや思いが伝わるように、写真や図、文章などの位置や大きさ、色などの工夫を考えている。
見直す力	友達からのアドバイスを聞くことができた。	友達からのアドバイスを聞いて、自分が考えたことや作ったものを見直すことができた。	見たり聞いたりする相手の気持ちを考えて、自分が考えたものをもう一度見直したり、より良くなるよう変更したりできた。
話す力	声の大きさや間の取り方や見せ方に気をつけて取り組んだ	自分が発信することに責任をもって、相手に伝えるように話し方や見せ方を気をつけて取り組んだ。	自分が発信することに責任をもち、相手に自分の考えや思いが伝わるように、話し方や見せ方を気をつけて取り組んだ。